

# 平和への願いを 作品に込め



県児童・生徒木工工作コンクールで最優秀賞を受賞した吉田陽翔さん写真左と、吉田さんの作品「花鳥風月く美しい世界に兵器はいらない」

県児童・生徒木工工作コンクール 中学校の部

吉田さん（永明中1年）最優秀賞



第48回県児童・生徒木工工作コンクール（県木材青年団体連合会主催）中学校の部

で、茅野市永明中学校1年の吉田陽翔さん（12）の作品「花鳥風月く美しい世界に兵器はいらない」が最優秀賞（県知事賞）に選ばれた。昨年は小学校高学年の部で受賞して

おり、最優秀賞は2年連続。今回も世界平和への願いを作品に込めた。

吉田さんは小学2年時から作品を応募。昨年念願の最優秀賞に輝き、出品は一区切りにしようにと考えていた。だが、進出した全国大会審査会で県内の関係者から「来年も全国大会で待ってる」と声を掛けられたこともあり、今年も出品を決めた。

今年は市内の製材所から丸太を譲り受けて夏休み前から制作を始めた。中心に据えたのはオナガドリをモチーフにした鳥。頭部は細い木くずを密集させてよりリアルに近づけた。花や月も木で作り、

「風は木くずを巻いたり切ったりして鳥の羽がふわっとたなびく雰囲気を出した。平和との対比として戦争の醜さを、撃ち込まれた木のミサイルで表現した。縦、横、高さ

いずれも55センチ以下というサイズをフルに使い、1カ月半ほどかけて完成させた。

昨年の作品タイトルは「世界平和の花くもしも砲弾やミサイルが花になつたら」だった。平和をテーマにするのは、世界の美しさに争い事はそぐわないと思うからだ。吉田さんは「戦争はやっぱりよくない。一度壊してしまった自然や命は同じ形に戻せない」と話す。

作品は来年1月の全国一次審査に進み、突破すれば2月予定の最終審査に臨む。ライバルは大勢いるが、「一番上を取りたい」と話している。

県コンクには県内の小中学校から2062点の応募があり、うち諏訪地域からは1050点が寄せられた。各地区の予選を経た55点が県審査会に出品された。

（小尾口有一）